

平成28年度

教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成28年度対象)

平成29年3月

皆野町教育委員会

教育委員会の事務に関する点検評価

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いその結果に関する報告書を公表することとされています。

皆野町教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資すると共に、町民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務に関する点検評価」を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(昭和31年6月30日法律第162号) より抜粋
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

○点検評価の対象及び方法

皆野町では、第4次皆野町総合振興計画「皆野魅力アップ21」に基づき、

教育行政を推進しています。そして本計画に基づき実施されている31の具体的な施策のうち、本年度は10の主な施策の指標の達成状況及び各事業の取組状況を踏まえて、点検評価を実施しました。その後、課題、今後の展望を明らかにし、PDCAサイクルに基づいた継続的な教育行政の推進に資することとしました。

点検評価表のうち総合評価は、「S A B C」とし、区分の目安として

- S 計画以上に進んでいる
- A ほぼ計画通りに進んでいる
- B あまり進んでいない
- C 全く進んでいない

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「コメント」欄を設けると共に、各施策に「成果指標」を設定し、平成27年度からの実績値の推移を表で表しました。

4 教育行政の施策

I 基本理念

心にふるさとと夢を宿し、豊かな心を培う教育と文化の町をめざす皆野教育

II 本町の基本目標

- 高い学力と創造性を育む学校教育の充実に努める
- 生きがいを育む生涯学習の推進に努める
- 郷土愛と夢を育む文化・芸術活動の振興に努める

III 基本目標と施策の体系

基 本 目 標	重 点 施 策
1 確かな学力と自立する力の育成	(1)一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進 ※皆野っ子事業（指導員） (2)知徳体の充実を図り「生きる力」を育む教育の推進 (3)基礎基本の定着と思考・判断・表現力を養う教育の推進 ※皆野っ子事業（自主学習ノート）※県アドバンスド事業 (4)伝統文化の尊重等グローバル化に対応する教育の推進 ※皆野っ子事業（英語検定）

	<p>(5) キャリア教育・職業教育を推進し、啓発的経験活動を充実させる。</p> <p>(6) 就学支援・特別支援教育の推進</p> <p>(7) 小・中学校9年間を一貫した教育の充実</p> <p>(8) 小学校外国語活動の支援※皆野っ子事業（英語Land）</p> <p>(9) 皆野っ子学びウィークの推進</p>
2 豊かな心と健やかな体の育成	<p>(1) 「豊かな心」を育む体験的活動の充実</p> <p>(2) 全教育活動を通じた道徳教育の推進</p> <p>(3) 生徒指導・教育相談の充実</p> <p>(4) 体力の向上と学校体育活動の充実※町民スポーツ事業</p> <p>(5) 学校保健・学校給食の充実</p> <p>(6) 皆野っ子3つのめあての推進</p>
3 質の高い学校教育の推進	<p>(1) 教職員の資質向上 ※皆野っ子事業（教員指導員・国内派遣）</p> <p>(2) 子どもたちの安心・安全の確保</p> <p>(3) 学習環境の整備・充実 ※皆野っ子事業（自主学習ノート）</p> <p>(4) アクティブラーニングを意識した指導の充実</p> <p>(5) チーム学校づくり ※県事務の共同実施事業</p>
4 幼児教育の振興と家庭・地域の教育力の向上	<p>(1) 豊かな心と基本的な生活習慣を育む幼稚園教育の充実と環境の整備※皆野っ子事業（英語活動）</p> <p>(2) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続</p> <p>(3) 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進 ※皆野っ子事業（教育委員会だより）</p> <p>(4) 家庭教育支援体制の充実 ※皆野っ子事業（自主学習ノート）</p>
5 人権尊重の教育の推進	<p>(1) 人権と生命を尊重する教育の推進</p> <p>(2) 同和教育の推進・充実</p> <p>(3) 障がい者理解・差別解消を目指す教育の推進</p> <p>(4) 男女共同参画社会の実現を図る教育の推進</p>
6 生涯学習・生涯スポーツの振興	<p>(1) 生涯を通じた多様な学習活動体制の整備・充実</p> <p>(2) まちづくり活動と連携した社会教育の充実</p> <p>(3) 健康増進と体位体力の向上を目指すワンワン運動</p> <p>(4) 生涯スポーツ・地域スポーツの振興 ※町民スポーツ事業</p>
7 伝統文化継承と文化財保護・活用の推進	<p>(1) 郷土芸能等の保存・活用と後継者の育成 ※皆野っ子事業（英語Land）</p> <p>(2) 文化財の保護・活用と文化活動の振興 ※文化財活用事業（講演会等）</p>

※平成28年度重点事業 皆野っ子事業 町民スポーツ事業 文化財活用事業
県アドバンスド事業 県事務の共同実施事業

※ 地教行法に基づき、教育に関し学識経験を有する方から自己評価に対するご意見や各事業への提言をいただきました。

5 重点施策の点検評価

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」							
施策名	一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に基礎基本の定着と、思考力・判断力・表現力を養う教育を推進します。 ○ 児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組をします。 ○ 児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。 						
施策に関する主な取組	○一人一人に目を向けたアドバンスド事業						
	○きめ細やかで質の高い教育の推進(重点対象は学力下位層)						
	○県や国の学力学習状況調査結果の分析活用						
	○教科等の指導方法の工夫改善						
指標名	埼玉県学力・学習状況調査						
成果指標	指標の説明		H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	埼玉県学力・学習状況調査で、学力の伸びが県平均を上回った学年・教科数	前年比較のない小4と中2英語を除く	7/11				
	埼玉県学力・学習状況調査で、正答率が県平均を上回った学年・教科数	実施教科学年数14(国6数6英2)	3/14				
	現状値(H28年度)	県以上の伸び 7/11 県以上の正答率 3/14	→	目標値(H32年度)	11/11 14/14		
平成28年度重点取組	一人一人に目を向けたアドバンスド事業の推進						
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 皆野っ子事業(学力向上推進事業) <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に目を向けた アドバンスド事業の推進(県教委委嘱)と研究発表会の実施 ・義務教育指導課、北部教育事務所 町指導主事、指導員による訪問の計画的実施(月例訪問、要請訪問、支援担当訪問、巡回指導) ○ きめ細やかで質の高い教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・土曜ワクワク勉強会(国神小)、夏季休業中の補習(全小中学校)の実施 ・皆野中学校個別支援プログラムの推進 ○ 地域・家庭と連携した学力向上策 <ul style="list-style-type: none"> ・皆野っ子学びウィークの推進(1-(9)にて再掲) ・自主学习ノートによる家庭学習の質、量の向上 						
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない					
課題	欠けている学力の着実な補充 学力中位層、学力上位層への的確な手だて						
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、県委嘱の一人一人に目を向けたアドバンスド事業を中心とし、全町をあげて学力向上に取り組むことができた。 ・算数・数学科を中心として、各校における少人数指導等の指導方法の工夫改善、長期休業中の補習、国神小で実施の土曜ワクワク勉強会等を実施し、学力向上策の推進ができた。本年度の成果指標の検証は来年度4月実施の埼玉県学力・学習状況調査の結果において実施する予定である。 ・したがって現状での総合評価は「A」である。 						
評価者評価	A	コメント	アドバンスド事業の推進や、国神小学校を始めとした補習学習等で大きな成果を得られている。県の学力・学習状況調査を指標としている点も妥当である。				

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	知徳体の充実を図り「生きる力」を育む教育の推進	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○生きる力を育てる義務教育の充実を図ります。 ・地域とともに育つ特色ある学校づくりを支援します。 ・教育に対する情熱と専門性と人間性を備えた教職員を育成します。 ・一人ひとりを生かす教育環境づくりを支援します。 ○知徳体のバランスの良い育成と教育の充実を図ります。1-(3)、2-(2)、2-(4)にて再掲						
施策に関する主な取組	○各校の特色を活かした教育の推進						
	○生きる力を育成する教育をサポートする人的支援						
	○知徳体の充実に関わる町の学力向上・生徒指導・体力向上の各委員会の充実						
○専門性を高める教職員研修の推進							
指標名	生きる力を育む学校教育に関わる人的支援の充実						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	各校の特色や課題、ニーズにあった人的支援の人数	—	9名				
	現状値 (H28年度)	9名		→	目標値 (H32年度)	15名	

平成28年度重点取組	各校の特色を活かした生きる力を育成する教育の推進					
平成28年度実績	○各校の特色を活かした教育の推進と生きる力を育成する教育をサポートする人的支援 (各校の特徴、ニーズに合わせて教育を推進するための支援) ・皆野中 さわやか相談員 スクールカウンセラー ・皆野小 特別支援教育支援員 学級支援員 小一問題対応非常勤講師 学級経営改善非常勤講師 ・国神小 学級支援員 スクールソーシャルワーカー ・三沢小 複式授業解消のための非常勤講師 ○知徳体の充実に関わる町の学力向上・生徒指導・体力向上の各委員会の充実 ・体力向上3回 生徒指導(ネットワーク会議含む)4回 学力向上3回の実施 ○専門性を高める教職員研修の推進 ・人権教育 外国語教育 学力向上 音楽科 体力向上 アンガーマネジメント等の研修					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	各校の特色を活かした「生きる力」を育む教育を推進できたが、効果的な取組の共有が今後の課題である。					
評価コメント	・生きる力の育成に向けての教育の充実に向けた人的、物的支援の充実を図ることができた。皆野小学校においては、課題のある児童への対応を図るため、県教委と連携し、学級経営改善非常勤講師の配置により、状況の改善につなげることができた。 ・知徳体のバランスのとれた児童生徒の育成については、各施策【1-(3) 2-(2) 2-(4)】の推進により成果を上げることができている。 ・したがって総合評価は「A」である。					

評価者評価	A	コメント	多くの人的支援を行っており、その効果は大きい。人的支援の数は多いほど教育効果は大きくなるので、今後も予算状況を考慮しながら、より一層の効果的な人的支援を期待したい。
-------	---	------	--

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	基礎基本の定着と思考・判断・表現力を養う教育の推進	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身につけさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し学校の課題改善に向けた取組をします。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。						
施策に関する主な取組	○皆野っ子事業(学力向上推進事業)○地域・家庭と連携した学力向上策 ○きめ細やかで質の高い教育の推進 ○県や国の学力学習状況調査結果の分析活用 ○教科等の指導方法の工夫改善						
指標名	全国学力・学習状況調査						
指標の説明		H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
成果指標	全国学力学習状況調査における国の平均正答率を上回る項目数	小6(国以上)	0/4	0/4			
	○比較8項目:小6(国語AB算数AB)	小6(県以上)	1/4	0/4			
	中3(国語AB数学AB)	中3(国以上)	0/4	3/4			
		中3(県以上)	0/4	4/4			
		現状値(H27年度)	小6(1/8) 中3(0/8)		→	目標値(H32年度)	小6(8/8) 中3(8/8)

平成28年度重点取組	皆野っ子事業(皆野っ子学力向上推進事業) きめ細やかで質の高い教育の推進	
平成28年度実績	○皆野っ子事業(皆野っ子学力向上推進事業) ・学校教育指導員の設置による指導体制の強化、学校、園訪問の計画的実施による訪問回数の増加 (月例訪問、要請訪問、巡回指導、支援担当訪問等) ・みーな問題の作成(全国学テB問題の類似問題) ・福井県の学力向上先進校訪問事業の成果の各校への還元 ○NRT学力テストの実施に関する補助事業 ○中学校におけるキャリア教育と連動した授業改善の実施(学習指導案への明記) ○地域・家庭と連携した学力向上策 ・皆野っ子学びウイークの推進(1-(9)にて再掲)	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	国や、県の学習状況調査の結果に基づく課題の解決に向けて少人数学習や、補習等に取り組んでいる。町全体としての取組にはまだ課題があるので、次年度は各校で連携し、家庭地域とも連携し「皆野っ子学力向上推進事業」を前進させたい。	
評価コメント	・皆野っ子学力向上推進事業として昨年度に引き続き、全町をあげて学力向上に取り組むことができた。 ・小学校においては全国学テB問題に対応したみーな問題を作成し活用できた。 ・中学校に置いてもキャリア教育の視点から、6スキルの取組を推進した授業改善と、生徒の学習への意欲付けを推進することができた。本年度の成果指標の検証は来年度の全国学力学習状況調査の結果において実施する予定である。	

評価者評価	A	コメント	特に中学校では効果が数字に表れている。学校教育指導員の訪問も教員の資質向上に大きく貢献している。問題づくりも問題を把握し、授業力を向上させることにつながっている。
-------	---	------	---

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	伝統文化の尊重や、グローバル化に対応する教育の推進	点検評価担当	学校教育担当					
施策の方向性	○伝統と文化を尊重し、郷土皆野に誇りを持ち、我が国と郷土皆野町を愛する態度を養います。 ○グローバル人材の育成を図るため、小学校外国語活動におけるコミュニケーション活動の推進を図るとともに、なめらかな接続により、中学校の英語教育の充実を図ります。							
施策に関する主な取組	○伝統と文化を尊重する教育の推進							
	○国際性を育む教育の推進							
	○外国語活動、英語教育の充実							
指標名	英語検定3級取得率							
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	
	中学3年生時に、英語検定3級(3級同等)程度の能力を持つ生徒の育成	3級取得者	8%	22%				
		3級同等	43%	5%				
		計	51%	27%				
	現状値(H27年度)	英検3級 8% 英検3級同等含51%	→	目標値(H32年度)	英検3級 60% 英検3級同等含70%			

平成28年度重点取組	外国語活動、英語教育の充実 国際性を育む教育の推進	
平成28年度実績	○伝統と文化を尊重する教育の推進 ・夏季休業中の教職員文化財巡り研修の実施 ・地域人材を活用した地域芸能の学習(皆野小学校) ○外国語活動、英語教育の充実 ・英語教育推進会議を3回実施 ・中学3年生に対して英語検定の受検料を1人1回全額補助を実施 ○国際性を育む教育の推進・小学校3年生からの外国語活動の実施(年5回) ・幼稚園での外国語活動の実施(週1回)	
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	英語力の向上を図るため、国の目標である英語検定3級程度の英語力を持つ生徒の割合70%に向けて、実際に英語検定による資格取得ができるような支援が必要である。	
評価コメント	・中学3年生に対して英語検定の受検料を1人1回全額補助することにより、受検率の向上と、英語検定3級以上の取得者が前年度7%から22%増加したが、まだまだ目標値には遠い。より一層の推進が必要である。 ・幼稚園での英語活動を週1回外国人指導者を招いて実施することができ、早期から本物の英語に親しむ活動が推進できた。 ・総合学習で秩父音頭や神楽などの奏楽、舞等を実践し、郷土愛をはぐくむことができた。 ・したがって総合評価は「B」である。	

評価者評価	B	コメント	英検補助はよい。英語検定3級程度の英語力を持つ生徒の割合が70%はとてハードルが高いが良い目標である。目標に向かった期待値は高い。
-------	---	------	---

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	キャリア教育・職業教育の推進と啓発的経験活動の充実	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的、系統的なキャリア教育を推進します。 ○中学校ではすべての活動でキャリア教育の視点を明確にして取り組みます。 ○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、学校、家庭、行政、地域などが一体となって、実際の職場や地域での体験活動を推進します。						
施策に関する主な取組	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ○小中高における「なめらかな接続」の推進 ○職場体験活動の充実 ○地域行事、イベントへの積極的参加						
指標名	将来の夢や仕事について考えている児童生徒の割合(皆野町学び・生活アンケート)						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	皆野町学び・生活アンケートで、将来の夢や仕事について考えている児童生徒の割合	-	小 83.2% 中 75.9% 全 79.9%				
	現状値(H28年度)	79.9%		→	目標値(H32年度)	100%	

平成28年度重点取組	発達段階に応じたキャリア教育の推進	
平成28年度実績	○職場体験活動の充実 ・中学2年生において全員が2日間の職場体験活動を計画(H29年度から実施) ○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・中学校では、キャリア教育の視点を明確にして毎時間の授業を実施し、6つの観点からキャリア教育における資質の育成に取り組んでいる。 ・秩父市出身でリオオリンピックに出場した塚越さくら選手を招いてのふれあい講演会を中学校で実施し、目標をもって努力することの大切さを学んだ。 ・皆野高校と連携し、中学2年生が高等学校の授業体験を行った。 ○地域行事、イベントへの積極的参加 ・秩父音頭祭りへの幼稚園・小・中学校の参加 幼稚園 66名 小学生(スポ少 84名・子ども会 147名) 中学生(部活動 224名) ・地域の祭り・行事等への参加(延べ人数 小学生 87名 中学生 40名)	
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	学力向上やモチベーションの高揚が目指す先としてキャリア教育を見据え、将来への夢や希望を持てる子供たちを育成していくことが必要である。 また、ふるさと祭りなど、地域の行事への参加者を増やし、地域とのつながりを増やしていきたい。	
評価コメント	・中学校での職場体験事業は、確実な計画を立案し、実施に向けて着実に準備を進めていきたい。協力事業所の数は頭打ちとなっているが、その増加を図りたい。 ・中学校でのキャリア教育の視点を踏まえた活動は、実施初年度として足固めができたところである。 ・秩父音頭祭りには、幼稚園から、中学校までの子供たちが参加し、社会とふれあう体験をすることができた。地域の行事、イベント等への園児、児童生徒の参加を一層促進していく必要がある。	

評価者評価	B	コメント	キャリア教育の視点を踏まえた授業や様々な活動は、推進していく上でいくつかの課題もあるが、今後の取組に期待したい。Bは妥当の評価である。
-------	---	------	---

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	就学支援・特別支援教育の推進	点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○各学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進します。 ○早期からの実態把握を行い、必要に応じた支援体制を整えます。 ○教育の機会均等の趣旨にのっとり、特別支援教育奨励費事業を進めます。					
施策に関する主な取組	○特別支援教育環境の整備	○特別支援教育の視点に立った指導の充				
	○就学支援・相談の充実					
	○就学支援委員会の充実					
	○他機関との連携					
指標名	支援の必要な一人一人のニーズに応じた教育支援を目指して					
指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
就学に向けた相談件数	—	33件				
	現状値 (H28年度)	33件	→	目標値 (H32年度)	50件	

平成28年度 重点取組	一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実					
平成28年度実績	○特別支援教育環境の整備 ・新設1校1学級、減設1校1学級、町全体設置数 4校7学級 ・特別支援教育補助員、非常勤講師の配置。 ○就学支援・相談の充実 ・早期からの個別就学支援・就学相談により、実態把握の共有から始まり、一人一人の支援について、関係者で合意形成を図る基となっている。 ・スクールソーシャルワーカー等による巡回相談・指導。 ○就学支援委員会の充実 ・障害児就学支援委員会3回の実施。 ・障害児就学支援委員会の望ましい運営の推進 ○他関係機関との連携 ・教育、福祉、保健、医療等との連携 ○就学援助について、法令に則り適切な支援					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	・早期からの支援を必要とする幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切かつ、途切れない継続したきめ細やかな教育支援。 ・障がいの多様化に対応して、ひとりで抱えない全教職員の理解の共有と指導力の向上。					
評価コメント	・特別な支援を必要としている幼児・児童・生徒について、各学校で校長を含め教職員で望ましい支援につながるよう取組んでいる。 ・障害児就学支援委員会の望ましい在り方について話し合うことで、委員の理解の共有がなされた。対象となる家庭の揺れ動く気持ちに寄り添いながら、連携し進めていくことがとても大切であることも再確認された。 ・他関係機関との連携をもつことで、専門的・チーム支援、充実につながる。 ・就学援助について、法令に則り適切な支援に取り組んでいる。					

評価者評価	A	コメント	一人一人の教育的なニーズに応じた多様な取組が行われている。
-------	---	------	-------------------------------

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	小中学校9年間を一貫した教育の充実		点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開することで、児童生徒の学力向上や中一ギャップの解消、学校生活への適応を促進します。 ○小・中学校間で9年間を見通して学習指導や生徒指導等において互いに連携し、小学校から中学校への接続を円滑に進めます。						
施策に関する主な取組	○小・中学校合同研修会		○				
	○児童生徒の心をつなぐ活動		○				
	○中学校教員による出前授業、チームティーチング		○				
	○小学生の中学校体験授業		○				
指標名	中一ギャップの兆候としての中学1年生の不登校生徒数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	中学1年生の不登校児童生徒数 ()は学校全体の人数	1年 1 (全体 2)	1年 0 (全体 2)				
	現状値 (H28年度)	0		→	目標値 (H32年度)	0	

平成28年度重点取組	小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育の推進	
平成28年度実績	<p>○小・中合同研修会の実施 年度末及び年度初めの小6、中1担当者による情報交換会の他、今年度は夏休みに小・中合同の学力向上研修会及び英語・外国語活動研修会を実施した。</p> <p>○中学校教員による出前授業、チームティーチングの実施 中学校教員による音楽科出前授業や外国語活動TTの他、学級活動で中学校教員による中学校への適応指導を実施した。</p> <p>○卒業を間近に控えた小学6年生を対象に、中学校の教室で中学校教員による体験授業を実施し、中学校での授業や生活に対しての様々な不安の解消を図った。</p>	
総合評価	B	<p>総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない</p>
課題	<p>・小中一貫教育の重要性について教職員の意識の違いが大きい。 ・9年間の一貫した教育の推進について中・長期的なビジョンの明確化と共有が重要である。</p>	
評価コメント	<p>・小・中学校間で教員相互の交流は一部の学校や教員間で実施できたが、更にその輪を広げていきたい。 ・小学6年生を対象とした中学校での体験学習や、例年好評である。中学校の学習や教師・友達に対する不安の解消に大いに役立っている。 ・今後、小・中学校間や小学校どうしての児童生徒の交流も工夫していきたい。 ・児童生徒の社会性の育成については、発達段階に応じて指導していくことが不適応解消のためには必要である。</p>	

評価者評価	B	コメント	小・中学校9年間の学びと育ちの連続性という視点での教員の意識改革を一層進め、基本的な考え方を共有した着実な実践を進めていただきたい。
-------	---	------	--

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	小学校外国語活動の支援	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○平成32年度の小学校学習指導要領改訂に伴う、外国語科への円滑な移行を目指します。 ○幼児教育からの発達段階に応じた、子供達の外国語活動の素地を広げる教育を実施します。 ○児童が生活の中で生かせる外国語教育を実施します。 ○ネイティブな外国語に触れる機会を増やします。						
施策に関する主な取組	○外国語活動の教育戦略の策定 ○幼児教育からの発達段階に応じた外国語活動の実施。 ○主体的な活動を促す教育の実践 ○						
指標名	外国の人と友達になりたい小学生の割合						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	皆野町学び・生活アンケートで外国の人と友達になりたい小学生の割合	—	59%				
	現状値 (H28年度)	59%		→	目標値 (H32年度)	90%	

平成28年度重点取組	ネイティブな外国語に触れる	
平成28年度実績	○えいごスポーツフェスティバルの開催 ・小学校1～3年生を対象にえいごスポーツフェスティバルを本年度実施した。8人のALTによるネイティブな英語を使った進行、応援等を実施する中で、児童から自然と声援やかけ声を英語で行う等、外国語に触れる機会が増えた。 ○グローバル戦略プランの策定 ・幼稚園から中学校までの外国語活動の皆野町独自の戦略プランを策定。皆野町の外国語教育の道筋をたてる。	
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	教職員の外国語の授業に対する不安感の払拭	
評価コメント	・子供達が英語に触れる機会を作ったため、英語に対するハードルは下がり、学校での学習の前に親しみを持つことができた。 ・戦略プランの策定により、当町の外国語教育の道筋をたてることができた。 ・学校現場で教員が英語科に対しての不安を払拭すべく、今後は教材整備、現在行っている教員研修のより一層の充実等が必要になってくると考えられる。 ・学校で行う外国語活動とリンクし、リアルワールドで学習成果をアウトプットできる環境づくりを今後すすめたい。 ・よって評価は「B」である	

評価者評価	B	コメント	小学校の英語指導補助員と併せて、外国人のALTを小学校に配置した方がよい。学校に対してALTをどう入れていくかが重要である。
-------	---	------	--

【重点施策1】「確かな学力と自立する力の育成」

施策名	皆野っ子学びウイークの推進		点検評価 担当	学校教育担当				
施策の方向性	「中学校の定期テスト前部活中止期間に、小学校も家庭学習強化週間とする取組」 ○学校、家庭、地域が一体となった教育の推進します。 ○家庭学習の質、量の充実します。 ○小中の連携による学習習慣の確立します。 ○							
施策に関する 主な取組	○学校、家庭、地域の連携強化のための取組の周知							
	○家庭学習の手引き(小)、家庭学習マニュアル(中)による質の向上							
成果指標	指標名	家庭学習の時間の増加						
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	
	皆野っ子学びウイーク中の 家庭学習時間 (皆野っ子学びアンケート)	小		65分				
		中		110分				
	現状値 (H28年度)	小65分 中110分		→	目標値 (H32年度)	小90分 中150分		

平成28年度 重点取組	家庭学習の量の増加と、質の向上	
平成28年度実績	○学校、家庭、地域の連携強化のための取組の周知 ・啓発ポスター、リーフレットの作成と配付 ・教育委員会だより「みなのはる」での地域への周知 ○家庭学習の手引き(小)、家庭学習マニュアル(中)による質の向上 ・家庭学習の手引き(小)、家庭学習マニュアル(中)の作成 ・皆野っ子学び生活アンケートによる検証 ○自主学習ノートの活用 ・自主学習ノートの作成による学習習慣の確立 ・皆野っ子自主学習ノートの各校への掲示による啓発 ・中学校に於ける家庭学習コンテストの実施による啓発	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	ゲームやスマホに関わる時間が依然多く、家庭学習や読書をする時間がとれていない。	
評価コメント	・自主学習ノートの効果もあり、家庭学習の質量ともに向上が見られている。 ・啓発ポスターや、教育委員会だより「みなのはる」による広報の効果もあり、保護者にも認知され、小中の連携した取組として効果が上がっている。 ・重点取組の効果も達成されている。 ・したがって総合評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	自主学習ノートの活用も含めて良い取組ができている。学習習慣の確立と、勉強の質と量の向上を評価する方向で継続していきたい。
-------	---	------	--

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	豊かな心を育む体験的活動の充実	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○多様な体験活動をとおして、自らの生き方を考えさせるとともに、調和のとれた豊かな人間性や社会性を育みます。 ○自分自身が社会の一員としてかけがえのない存在であることを自覚するとともに、自分自身が社会に役立つことの大切さに気づき自己有用感を育みます。						
施策に関する主な取組	○皆野っ子三つのめあての取組 ○自然、社会、人、本、家族等様々な体験活動 ○中学校におけるアドベンチャープログラム体験						
指標名	8割以上身につけている「規律ある態度」の項目数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	県学調の「規律ある態度」の質問紙調査において8割以上が「良くできる」「だいたいできる」と回答した項目数 全項目数 小36 中36		小 26 中 34				
	現状値 (H28年度)	60/72	→	目標値 (H32年度)	72/72		

平成28年度重点取組	各種体験活動の推進	
平成28年度実績	○皆野っ子三つのめあての取組 各学校毎に、皆野っ子三つのめあてについて、生活目標等を設定してねばり強く取り組んでいる。あいさつ運動等とおして、保護者や地域にも啓発を行っている。 ○様々なボランティア体験活動の実施 中学校では産業観光ボランティアやロードサポートなど、また小学校では地域清掃や七夕飾り作りなど、様々な活動に多くの児童生徒が取り組んだ。(小学生 375名 中学生 135名) ○高齢者や幼児との体験活動の実施 高齢者や幼児との体験活動も多くの学校で実施した。(小学生 278名 中学生 62名) ○「前原の不整合」出前授業体験 小6 78名 ○農業体験等の自然体験 小学生 496名 中学生 255名 ○中1年生(89名)がアドベンチャープログラムを4月に体験し、学級づくりに生かした。	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	・自然、人、社会等、様々な形でのボランティアや体験活動が行われており、ある程度の効果が表れているものと思われる。今後、家族とのふれ合いをねらいとした体験活動等も積極的に企画・実施していきたい。	
評価コメント	・皆野っ子三つのめあての取組では、各学校が生活目標等により、様々な形態で進められている。繰り返し指導を継続するとともに、家庭も巻き込みながら進めていくことが必要である。 ・ボランティアや体験活動は、様々な種類の活動が行われていて、参加者の延べ人数も多くの数に昇っている。しかし、一人当たりの平均にするとまだまだ少ない数字に留まっている。今後参加体験できるボランティア等の活動の場をどのように確保していくかも課題となる。 ・豊かな心の育成の視点として、本と親しむことの必要性やその実践についても啓発を進めたい。	

評価者評価	A	コメント	児童生徒の体験活動をより充実させる方向で活動内容や活動形態などを検討し、更なる取組を進めたい。
-------	---	------	---

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	全教育活動を通じた道徳活動の推進		点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた教育活動を推進します。 ○子供たちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進します。 ○学校における子供たちの豊かな読書活動を推進します。 ○教育に関する3つの達成目標(規律ある態度)を推進します。						
施策に関する主な取組	○道徳教育の推進						
	○特別の教科道徳の実施に向けての準備						
	○読書活動の推進						
指標名	教育に関する3つの達成目標規律ある態度						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	教育に関する3つの達成目標①集団の場での態度が「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合の平均		89.40%				
	現状値(H28年度)	89.40%	→	目標値(H32年度)	95%		

平成28年度重点取組	道徳授業の推進	
平成28年度実績	○道徳教育の推進、特別の教科道徳の実施に向けての準備 ・各学校における道徳授業の工夫改善(課題解決型、体験型、対話する道徳授業の推進) ・町教委、教育事務所学力向上推進担当・教育支援担当訪問において全ての学校で道徳授業の公開授業を実施 ○指導者の育成 ・初任者研修、5年経験者研修の指導者として教委で推薦した教員を指導者として派遣 ・県教委作成の特別な教科道徳指導資料の編集への町内教員の派遣 ○体験活動の推進 2-(1)に再掲 ○読書活動の推進 ・計画的な図書購入の実施と、読書の量と質の増加に向けての啓発	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	特別の教科道徳の実施を平成30年度に控え、さらなる指導方法の工夫改善が喫緊の課題である。	
評価コメント	平成25, 26年度の皆野小学校の道徳教育推進モデル校としての研究の成果もあり、町内の教員の道徳授業は一定のレベルであるとの評価をいただいている。各校においても支援担当訪問等で、道徳の授業公開が実施され、研究協議をすることで、工夫改善につながっている。中学校においても道徳授業の公開が進んでいる。よって評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	「特別の教科道徳」の実施に向けての着実な取組が進められている。皆野小学校の研究の成果を共有し、計画以上の取組が進められている。
-------	---	------	---

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	生徒指導・教育相談の充実		点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○生徒指導・教育相談体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて、積極的な生徒指導及び教育相談を推進します。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行います。						
施策に関する主な取組	○生徒指導・教育相談体制の充実						
	○非行問題行動の防止						
	○皆野っ子三つのめあてによる家庭地域との連携						
成果指標	指標名	あいさつがよくできる児童生徒の割合					
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	あいさつがよくできる児童生徒の割合 (県学調 規律ある態度 あいさつができると回答した児童生徒の割合)	89.30%	83.62%				
	現状値 (H27年度)	89.3%(県88.00%)		→	目標値 (H32年度)	100%	

平成28年度重点取組	「皆野っ子三つのめあて」の取組による学校・家庭・地域の連携	
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○「皆野っ子三つのめあて」の取組による学校家庭地域の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの掲示、チラシの配布等による保護者地域への啓発 ・あいさつ運動や授業での返事の励行 ・時間を守る、身の回りの整理を重点とした取組の推進 ○皆野中学校いじめ非行防止ネットワーク推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の現状や取組についての情報交換 ・警察、福祉、保護者、学校関係者による情報共有 ○教育相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事、及び学校教育担当者による適時の教育相談対応 ・さわやか相談員(皆野中)の小学校訪問、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携 ・健康福祉課との連携によるケース会議の実施 	
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	各校において「あいさつ」「時間を守る」「身の回りの整理」の三つを重点とした取組は成果を上げたが、今後はより一層地域を巻き込んだ取組が必要である。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「皆野っ子三つのめあて」の作成と共通の取組により町内の学校間で共通理解が図れた。しかし、町全体として具体的にどのような取組をどのように進めるかという点では不統一の部分もあり、共通実践をどのように進めるかが今後の課題である。 ・皆野中学校生徒指導主任の小学校の兼務発令により、小、中学校の生徒指導面で情報共有が図れたが、問題行動等への対応方法等についても、小・中学校間で指導の統一性や連携が必要である。 	

評価者評価	B	コメント	今後の取組のより一層の充実を期待したい。
-------	---	------	----------------------

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	体力の向上と学校体育活動の充実		点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○新体カテストの総合評価の向上を図ります。 ○体力向上推進委員会や体育協会等、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。						
施策に関する主な取組	○学校体育の充実						
	○指導方法の工夫改善と指導力の向上						
	○運動部活動の充実						
	○新体カテストによる体力データの向上						
指標名	新体カテストの結果						
指標の説明		H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
新体カテスト結果の5段階絶対評価で、上位2ランク(A、B)の児童生徒の割合	小学生	58.60%	62.50%				
	中学生	64.40%	61.10%				
現状値(H27年度)	小	58.6%		→	目標値(H32年度)	県+10%→59.8%	
	中	64.4%				県+10%→67.4%	

平成28年度重点取組	○学校体育の充実 ○指導方法の工夫改善と指導力の向上	
平成28年度実績	<p>○学校体育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆野町体力向上推進委員会の推進(各校の取組についての情報交換) <p>○指導方法の工夫改善と指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進委員会 授業研究会の開催(皆野小学校) ・秩父地区小学校体育連盟女子体育研究部研究授業(皆野小学校) ・ふれあいプールでの町内小学生の水泳大会参加(25M以上泳げる児童は男子92%(県80%)、女子85%(県77%)) <p>○運動部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部指導者の活用 <p>○新体カテストによる体力データの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上実践報告書の作成 	
総合評価	S	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	新体カテストの結果は比較的よいが、より一層の向上をしていくために、幼保小中の系統的な体力向上や、社会体育との連携が必要である。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園からの体力向上に向けた取組により新体カテストの結果は県内トップクラスとなっている。 ・体力向上推進委員会で、各校の情報交換を実施したり、授業研究会の開催による指導力向上に向けた協議をすることができた。 ・したがって、総合評価は「S」である。 	

評価者評価	S	コメント	泳力の高さは、施設(ふれあいプール)と、機会(水泳大会)の充実の影響が大きい。
-------	---	------	---

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	学校保健・学校給食の充実		点検評価 担当	学校教育担当			
施策の方向性	○児童生徒の健康に資するため、保健・給食に関する教職員の資質向上に努めます。 ○疾病等に対し迅速・的確に対応するため、事務局及び各教育機関が相互連携できる体制を整えます。 ○安心・安全な給食の時間を提供するため、食物アレルギー対応の充実に図ります。						
施策に関する主な取組	○関係機関・担当者による会議の開催 ○感染症対応・食物アレルギー対応等に関する連絡体制の整備 ○学校保健・学校給食に関する研修会の開催						
指標名	食物アレルギーに関する事故件数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	学校給食等における児童生徒等の食物アレルギーに起因する事故発生件数	0	0				
	現状値 (H28年度)	0		→	目標値 (H32年度)	0	

平成28年度 重点取組	○感染症対応・食物アレルギー対応等に関する連絡体制の整備 ○学校保健・学校給食に関する研修会の開催	
平成28年度実績	○感染症対応・食物アレルギー対応等に関する連絡体制の整備 ・インフルエンザ発生状況の町内の全教育・保育機関による情報共有を開始。 ・食物アレルギー対応のうち、保護者～給食センター間の連絡シートを改善。 ○学校保健・学校給食に関する研修会の開催 ・食物アレルギー対応に係る研修会(エピペン講習会)を、全教職員を対象に、全小・中学校・幼稚園にて実施。	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	食物アレルギー対応においては、物的・人的設備面での制約から、実施できる対応に限られる。安全を最優先するべく、各機関の連携を強化したい。	
評価コメント	各機関の協力を得て、情報共有・連絡の体制を強化することができた。学校保健・学校給食の充実に向けて、全機関が一体となり、取り組むための環境を整えつつある。 また、全教職員対象の食物アレルギー対応に関する研修会として初めて、エピペン講習会を実施した。各機関で充実した研修ができ、アレルギーへの理解、安全性に対する意識など、資質向上に役立った。 現状での総合評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	食物アレルギーへの対応等についての研修会の実施など、諸施策が計画的に進められ成果が現れている。
-------	---	------	---

【重点施策2】「豊かな心と健やかな体の育成」

施策名	皆野っ子三つのめあての推進		点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○皆野っ子三つのめあての啓発と推進をします。 ・あいさつ 返事をしっかりしよう(生徒指導・教育相談の指標として2-(3)に再掲) ・時間を守ろう ・身の回りをきれいにしよう ○教育に関する3つの達成目標を学校・家庭・地域が一体となって推進します。							
施策に関する主な取組	○各校へポスターの配付と掲示による啓発							
	○あいさつ運動等、学校、家庭地域が連携した活動の実施							
	○各校での清掃活動の充実							
指標名	教育に関する3つの達成目標「規律ある態度」達成目標							
成果指標	指標の説明		H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	
	「規律ある態度」達成目標の項目はじめのある生活ができるの1 時刻を守る 2身の回りの整理整頓をするの項目が「よくできる」、「だいたいできる」の児童生徒の割合(小中9学年の平均)	時刻を守る	94.30%					
		整理整頓	88.20%					
	現状値(H28年度)	時刻を守る	94.30%	→	目標値(H32年度)	100%		
		整理整頓	88.20%			100%		

平成28年度重点取組	皆野っ子三つのめあての啓発と着実な推進					
平成28年度実績	○各校へポスターの配付と掲示による啓発 ・皆野っ子三つのめあてについてのポスター、チラシによる啓発 ○あいさつ運動等、学校、家庭地域が連携した活動の実施 ・各小中学校でのあいさつ運動の実施 ○各校での清掃活動の充実 ・中学校生徒の通学路清掃ボランティアへの参加 ○時を守り、場を清め、礼を正す教育の推進 ・皆野っ子生活のきまりでの小中での共通理解、共通行動 ・小学校では、外遊びの奨励もあり、チャイムとともに行動し、3分以内に着席すること ・中学校ではチャイムとともに授業開始					
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	あいさつについては町を挙げての取組が見られたが、「時間を守る」「身の回りをきれいにしよう」についての全体の取組に甘さがあった。					
評価コメント	・皆野っ子三つのめあても2年目となり、あいさつについては特に各校での意識的な取組が見られた。(指標としては、生徒指導関連にて再掲) ・「時を守る」「身の回りをきれいにしよう」については、各校独自の取組として一定の成果を上げているが、全体での取組の情報交換や取組の共通理解の意識化は図れていなかった部分がある。校長会や、学力向上、生徒指導等の会議の場でもさらに共通理解を図り全体を向上させていく必要がある。 ・したがって総合評価は「B」である。					
評価者評価	B	コメント	各学校の取組を、町全体の取組として意識づけることが必要である。数値による実態把握と、教員間の連携を深め、今後の取組に期待したい。			

【重点施策3】「質の高い学校教育の推進」

施策名	教職員の資質向上		点検評価 担当	学校教育担当			
施策の方向性	○教職員の経験年数や専門性に応じた研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子供と向き合う環境作りのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。						
施策に関する主な取組	○経験豊かな人材の活用			○子供と向き合う環境作りの推進			
	○教職員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
	○人事評価制度の充実						
	○指導力不足教員への対応						
成果指標	指標名	学校課題に対応した研修の実施状況					
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	校内研修の回数(1園+4校)	104回	109回				
	教育委員会の要請指導・巡回指導の回数(要請訪問、月例訪問等含む)	40回	115回				
	現状値 (H27年度)	研修会数 104回		→	目標値 (H32年度)	130回	
		巡回回数 40回				150回	

平成28年度 重点取組	教職員研修の充実	
平成28年度実績	○経験豊かな人材の活用 ・学校教育指導員による巡回訪問 ○教職員研修の充実・指導力不足教員への対応 ・各園・学校への各2回以上の要請訪問の実施 ・全町教職員対象の人権教育研修会、学力向上に係る夏季研修会を実施 ・先進校視察(福井県)や英語科・外国語活動研修(3日間)の実施 ・アドバンスド事業に係る学力向上に係る校内研修及び研究発表会の実施 ・学力向上推進授業研究会の実施(各校の要請訪問への参加) ○人事評価制度の充実 ・管理職職対象人事評価制度研修会を3回実施(秩父郡市合同、校長、教頭) ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ・月例訪問(指導主事、指導員による月一回の学校・園の訪問)による状況把握と個別対応	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	各校において学力向上を目標に研修をすすめているが、指導者を招聘しての研修や、授業研究を伴う研修など、質を高めていくことが課題である。	
評価コメント	・各校において県の委託事業「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」の推進を中心とした研究の推進を図り、研究発表会も開催することができた。 ・指導主事による要請訪問は各校2回以上、その他月例訪問、教育事務所と合同の教育支援学力向上推進担当訪問、生徒指導訪問等、指導力向上を中心とした訪問、指導を計画的に実施することができた。 ・学校教育指導員による巡回指導も98回実施し、指導力の向上が図れた。 ・したがって総合評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	学校教育指導員の配置による成果が顕著に表れている。充実した研修も推進されており、資質向上が図られている。
--------------	---	-------------	--

【重点施策3】「質の高い学校教育の推進」							
施策名	子供たちの安心・安全の確保				点検評価担当	学校教育担当	
施策の方向性	○子供たちに危機管理能力の基礎を身につけさせるために、学校における実践的な避難訓練を計画的に実施します。 ○学校における危機管理体制の整備充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。 ○児童生徒の防犯や交通安全について地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校						
施策に関する主な取組	○安全教育の推進						
	○学校の危機管理体制の整備、充実 ○家庭、地域と連携した防犯、交通安全教育の推進						
指標名	児童生徒の交通事故ゼロ						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	園児、児童、生徒の交通事故に係る事故報告の件数	0件	1件				
		現状値(H28年度)	1件	→	目標値(H32年度)	0件	

平成28年度重点取組	安全教育の推進					
平成28年度実績	○安全教育の推進 ・全校での交通安全教室の実施 ・交通安全啓発物資の配付 ○学校の危機管理体制の整備、充実 ・交通安全啓発看板の設置 ○家庭、地域と連携した防犯、交通安全教室の実施 ・家庭教育学級(家庭教育の大切さや必要性について～ネット上のトラブルや危険性～) ・防災無線による見守り放送の実施(児童による放送) ・学校安全ボランティア、学校、教委の三者で通学路の危険箇所についてのワーキング作業を行い、危険箇所の情報交換や対応の検討を実施することができた。					
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	学校管理下での事故ゼロの継続はできているが、登下校の安心、安全の確保には、まだまだ課題がある。地域、警察等とも連携し、より一層の安全策を推進していく必要がある。また、学校管理下外での安全が課題である。					
評価コメント	・各学校における安全教育の推進や、安全ボランティアの協力により、学校管理下での大きな事故は発生していない。 ・新たな取り組みとして、学校、地域、教委が連携して行う通学路検討委員会を実施し、危険箇所の情報交換や安全対策につながった。 ・看板の設置等、現状でできる対策については推進することができた。 ・今後は子供たちの危機管理能力を一層高めるため、防災、防犯教育、訓練の質の向上を図ることが必要である。 ・したがって、総合評価は「B」である。					

評価者評価	B	コメント	今後のより一層の安心・安全の確保に向けた施策の充実に努めるよう期待します。
-------	---	------	---------------------------------------

【重点施策3】「質の高い学校教育の推進」							
施策名	学習環境の整備・充実				点検評価 担当	学校教育	
施策の方向性	○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境作りを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進するとともに、教材・備品の整備・充実を推進します。						
施策に関する主な取組	○学校施設の整備推進 ○学校図書館の整備充実 ○ICT環境の整備 ○教材、教具の整備充実						
指標名	学校図書館図書標準の達成率の平均						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として文部科学省が定める基準達成率の各学校の平均割合	—	111%				
	現状値 (H28年度)	111%		→	目標値 (H32年度)	120%	

平成28年度 重点取組	学校の設備や図書室の蔵書の計画的整備					
平成28年度実績	○学校施設の整備推進 ・皆野中 物理室のエアコン ・皆野小 トイレの洋式化(便座温熱化) ・三沢小 体育小屋の外壁修繕等 ○学校図書館の整備充実 ・学力向上に向けた学校図書館の蔵書の整備や更新の計画的な推進 ○ICT環境の整備 ・電子黒板の修理によるICT学習環境の維持 ○教材、教具の整備充実(皆野っ子事業に於ける教材、教具の整備) ・具体例 百玉そろばん 論理カノート 外国語活動指導教材					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	各学校の施設設備の老朽化により、修繕箇所が増えているが、予算の関係上全てには対応できていない。計画的な対応が必要である。					
評価コメント	・限られた予算の中で、緊急性や重要性、活用の頻度等を勘案し、優先順位を定め、計画的な環境整備を推進した。予算が大きいものはなかなか厳しい状況の案件もあるが、町当局とも協議を進め、教育に支障のないよう今後事業を推進していく。現状で対応できる中で、整備・充実を図れている ・したがって評価は「A」である。					

評価者評価	A	コメント	図書の整備100%超となると予算編成は厳しいが、計画的な整備に向け、予算担当部局からの充実した支援が継続されるよう今後も期待したい。
-------	---	------	--

【重点施策3】「質の高い学校教育の推進」

施策名	アクティブラーニングを意識した指導の充実		点検評価 担当	学校教育担当			
施策の方向性	○中央教育審議会の答申の趣旨について理解を深め、「主体的な学び」、「対話的な学び」「深い学び」に向けた授業改善に取り組みます。 ○各園、学校の課題研究推進の中で、「アクティブラーニング」についての理解を深め、実践的な研究を推進します。						
施策に関する主な取組	○指導主事、指導員の要請訪問、巡回指導による授業改善						
	○北部教育事務所学力向上推進担当・教育支援担当訪問での指導 ○指導方法の工夫改善に向けた情報の収集、共有、理解の推進						
指標名	教委主催の学力向上に係る研修会への参加人数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	学力向上に係る研修会や、各学校に於ける授業研究会への参加人数(のべ人数)	—	90名				
	現状値 (H28年度)	90名		→	目標値 (H32年度)	110名	

平成28年度 重点取組	アクティブラーニングを意識した指導の工夫改善						
平成28年度実績	○指導主事、指導員の要請訪問、巡回指導による授業改善 ○北部教育事務所学力向上推進担当・教育支援担当訪問での指導 ・各校に於ける指導方法の工夫改善に向けた研修推進の支援のための指導者の派遣(教育事務所指導主事、総合教育センター指導主事、埼玉大学付属小学校教諭、義務教育指導課指導主事等) ○指導方法の工夫改善に向けた情報の収集、共有、理解の推進 ・園長校長会議においての情報提供 ・新学習指導要領実施に向けた中教審論点整理等の確認 ・アクティブラーニングについての理解(主体的、対話的、深い学びについての共通理解) ・学力向上推進担当者会議による情報共有						
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない					
課題	平成32度からの新学習指導要領の内容についての共通理解と計画的な対応						
評価コメント	・学力向上についての意識は高まっており、手法としての「アクティブラーニング」を意識した授業実践が多くなっている。 ・一方で、活動ありきの指導方法もみられ、「何を学ぶか」+「どのように学ぶか」の意識を高め、子供たちの学力向上に効果的な指導方法の研究が今後益々必要となっている。 ・したがって評価は「A」である。						

評価者評価	A	コメント	多くの取組がなされ、アクティブラーニングを意識した授業の推進に向け充実が図られている。
-------	---	------	---

【重点施策3】「質の高い学校教育の推進」							
施策名	チーム学校づくりの推進				点検評価担当	学校教育担当	
施策の方向性	○小中学校における教育目標の実現、学校経営の一層の充実、及び事務の効率化・効果的な処理並びに学校事務職員の資質の向上を目的として事務の共同実施を推進します。 ○学校、家庭、地域が連携した学校づくりを推進します。						
施策に関する主な取組	○給与・旅費・サービスに関すること(共同実施)		○教育支援のための人的支援				
	○学校予算研修・文書事務(共同実施)		○				
	○新採用事務職員への支援(共同実施)		○				
	○関係諸機関や学校応援団との連携と活用		○				
指標名	チーム学校づくりの推進事業						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	推進協議会・旅費互審会・予算研修会・全体研修会・新採用事務職員、教職員への支援	—	88回				
	現状値(H28年度)	88回	→	目標値(H32年度)	90回		

平成28年度重点取組	○事務の共同実施「正確な事務処理と相互支援」					
平成28年度実績	○事務の共同実施 全体研修会では、各学校で給与・諸手当・サービス・旅費に関する表簿の点検を行い、適正処理に貢献した。新採用事務職員の訪問支援は複数の担当者により業務分野毎の適正な支援を行うことができた。皆野町4校の第2グループでは学校予算・サービスに関する研修会を実施し教委担当者による説明と協議の場として有意義な研修となった。 活動状況については、推進協議会1回、旅費互審会12回、学校予算研修会4回、全体研修会12回、新採用事務職員への支援59回となった。 ○関係諸機関や学校応援団との連携と活用 各校の状況の把握と活性化への支援(安全ボランティア研修 3-(2)再掲等)を進めた。 ○教育支援のための人的支援 教育支援員、校務員、事務職員、さわやか相談員、スクールソーシャルワーカー等の町費、県費による人的支援を学校のニーズに合わせて配置した。					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	学校長の事務負担軽減を目的として、共同実施責任者に諸手当認定及び給与報告に関する専決権の委譲を可能とする認定事務を行うことが課題となっている。					
評価コメント	○事務の共同実施 2町による共同実施初年度でありながら、年度当初から推進協議会・作業部会を円滑に行うことが出来たのは、前年度から両町教委と学校の事前協議を重ねた賜と言える。2町による共同実施を始めたことにより2町の教委の連携、教委と学校間の連携が一層促進し、学校運営への助力となった。 ○人的支援については必要に応じて実施しているが、今後も継続した配置を計画している。					

評価者評価	A	コメント	共同実施は初年度であるがほぼ計画通りに進んでいる。
-------	---	------	---------------------------

【重点施策4】「幼児教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」

施策名	豊かな心と基本的な生活習慣を育む幼稚園教育の向上	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○確かな学びと自立する力を育むための取組みをします。 ○伝統と文化を尊重し、グローバル化に対応する教育の推進をします。 ○現代社会に対応した質の高い幼児教育を推進するための環境の充実に努めます。 ○保育参加事業を通して、幼稚園理解や親支援の充実に努めます。						
施策に関する主な取組	○子育ての目安「3つのめばえ」の活用	○家庭・地域社会との積極的な連携					
	○生きた英語に触れる活動の積極的な推進						
	○質の高い幼児教育の推進						
	○幼稚園教員の資質向上						
指標名	子育ての目安「3つのめばえ」の活用した回数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	滑らかな就学に向け、子育ての目安「3つのめばえ」の啓発を含む活用回数	—	5				
	現状値 (H28年度)	5	→	目標値 (H32年度)	12		

平成28年度重点取組	一人一人の幼児の発達を促す環境の充実					
平成28年度実績	○子育ての目安「3つのめばえ」の活用 ・子供の発達や援助について共通理解を深め、家庭・地域社会・幼稚園が一体となって子供を育てていくことの推進 ・家庭教育力・職員の資質能力の向上 ・日常の園生活をととして、基本習慣の形成 ○生きた英語に触れる活動の積極的な推進 ・生きた英語に触れる活動を積極的に導入し、一人一人の幼児の発達を促す環境の充実(26日) ○質の高い幼児教育の推進 ・幼稚園教員の指導力向上(指導要請訪問を含む33回) ○家庭・地域社会との積極的な連携 ・各行事等を通して直接的なかかわりの実施(4回) ・地域社会への積極的な各種事業参加によるかかわり					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	・子供たちがどのように学ぶかアクティブ・ラーニング(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)の視点からの学習課程の改善と意識をもった指導が重要となる。 ・小学校との連携を深める。					
評価コメント	・子育ての目安「3つのめばえ」の活用により、「就学までに幼児に身につけてほしいこと」の理解が深められ共通イメージをもつことにつながっている。 ・外国人指導者による生きた英語に触れる活動を継続的に進めたことで、英語に対する園児の抵抗感も薄れ、自然な雰囲気の中でグローバルな学びがなされている。 ・教委事務局に幼稚園担当者が配置されたことで、事務局内での幼児教育への理解が深まると共に、教員の指導力の向上につながっている。					
評価者評価	A	コメント	教委事務局に幼稚園担当者が配置されたことで、幼児教育充実にに向けた施策が反映され易くなり、成果があがっていることが伺える。			

【重点施策4】「幼児教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」

施策名	幼児教育と小学校教育の円滑な接続	点検評価担当	学校教育担当				
施策の方向性	○幼稚園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。 ○子供の学びや育ちの連続性を踏まえた、幼児教育から小学校教育への「滑らかな接続」の充実を図ります。						
施策に関する主な取組	○質の高い幼児教育の推進	○福祉機関との連携					
	○幼稚園教員の資質向上						
	○幼児教育と小中学校教育との連携の推進						
	○幼稚園を活用した子育て支援の充実						
指標名	幼保小合同研修会への教職員の参加人数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	幼保小連携推進委員会を中心に開催する幼保小合同研修会への教職員の参加人数	41名	1・2回目計19名 3回目12名				
	現状値(H28年度)	31名		→	目標値(H32年度)	60名	

平成28年度重点取組	幼保小連携推進委員会を中心とした円滑な接続	
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い幼児教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の計画的実施(楽しく体を動かして遊ぶ子を目指して) ・要請訪問による指導力の向上 ○幼稚園教師の資質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・研修への積極的な参加による学びの充実 ○幼児教育と小中学校教育との連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小合同研修会の開催(年3回実施) ・子供たち同士の交流を支える教師間の連携 ・中学校生徒のボランティア(4日48名) ○幼稚園を活用した子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の行事日等の延長保育の実施(49日) ・祖父母参観、パパママ先生保育体験等の実施(27日134名) 	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	幼児・児童・生徒の「縦の交流」と「横の交流」をより計画性をもって、連携・交流活動を継続して進めていくことが効果的である。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童・生徒の交流も進められていて、小学校と幼稚園、保育園の情報交換や、保育参観等の連携については計画的に実施され成果が得られている。 ・幼保小合同研修会へは全ての小学校、幼稚園そして保育園からも参加者があったが、中学校職員も保育参観も含めた連携の機会をもてた。 ・連携と交流を深めることによって、接続プログラムの作成についても充実が得られる。 	

評価者評価	A	コメント	子育て支援に対してきめ細かな様々な取組が行われている。
-------	---	------	-----------------------------

【重点施策4】「幼児教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」

施策名	学校・家庭・地域が一体となった教育の推進		点検評価担当	学校教育担当			
施策の方向性	○地域の教育力を学校に取り込み、学校の教育力を高めます。 ○地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働きかけを行い、家族や地域の絆を深めます。 ○子どもたちの学習・体験機会の充実や安心・安全の確保に向け、地域住民の参画を得て学校・家庭・地域が一体となって取り組みを進めます。						
施策に関する主な取組	○学校応援団の活動の取組内容の充実		○教育委員会だよりの作成・配付				
	○学校公開の取組						
	○PTA活動の活性化の推進						
成果指標	指標名	学校応援団活動の年間活動回数					
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	小・中学校における学校応援団の1校当たりの年間平均活動回数	—	211				
	現状値 (H28年度)	211		→	目標値 (H32年度)	210	

平成28年度重点取組	学校応援団活動の充実	
平成28年度実績	○学校応援団活動 学習活動や農業等の体験活動をはじめ、安心・安全確保、環境整備等において、小・中学校の延べ活動回数は843回に達した。(一校当たり平均211回) ○学校公開の実施 「彩の国教育の日」及び「彩の国教育週間」をはじめとして、各小・中学校において様々な形で学校公開を実施し、保護者や家族等数多くの訪問者が得られた。 ○「教育委員会だよりの作成・配付 教育委員会の様々な施策や、町内児童生徒の学力・体力等の現状、学校内外での活躍状況などを広く町民に発信し、地域が一体となった教育の推進の糧とした。年間3回発行できた。	
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	・学校応援団活動の回数はある程度確保できている。今後活動内容の更なる工夫が求められる。 ・コミュニティ・スクールの導入に向けて着実な準備が急務である。	
評価コメント	・多くの学校で、様々な形で学校応援団の活動が行われている。特に安心・安全確保への支援は、ほぼ毎日行われている。学習への支援等工夫した活動がなされている例もあり、それらの活動を共有する場を工夫していきたい。 ・学校公開日には、ある程度の訪問者があるが、公開の内容によって数のばらつきが大きい。訪問者を活動に参加させたり、活動内容について訪問者に評価を依頼するなど、訪問者増加に向けての更なる工夫を進めたい。 ・町教委として、PTAの活動支援や、青少年健全育成活動の促進に向けて、更なる充実を図っていきたい。	

評価者評価	A	コメント	学校応援団活動を中心に、学校・家庭・地域が一体となった取組が着実に進められ指標からもAと判断できる。コミュニティ・スクールの導入については、課題に記されたとおりである。
-------	---	------	--

【重点施策4】「幼児教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」

施策名	家庭教育支援体制の充実		点検評価 担当	学校教育担当			
施策の方向性	○社会環境や生活様式が大きく変化する中で、育児への不安の増大など家庭の教育力の向上を図ります。 ○親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めることなど、家庭教育に関する学習を支援します。						
施策に関する主な取組	○家庭教育に関する学習機会の設定						
	○子育て支援策の充実						
	○親子ふれ合い活動の推進						
	○自主学習ノートの作成・配付・活用						
指標名	家庭教育に関する学習機会の参加者数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	家庭教育に関する学習機会の参加者数(延べ人数)	—	818				
	現状値 (H28年度)	818		→	目標値 (H32年度)	1000	

平成28年度 重点取組	家庭教育に関する学習機会の充実					
平成28年度実績	○家庭教育に関する学習機会の設定 町教委主催の家庭教育講演会その他、各幼稚園・小・中学校においても家庭教育に関する学習会を実施し、多くの参加者が得られた。 皆小 113人 国小 155人 三小 31人 皆中 280人 皆幼 239人 ○親子ふれ合い活動の推進 親子のふれ合い活動を推進し、学校毎に祭りや環境整備活動など工夫した取組が見られ、多くの保護者や児童生徒の参加があった。 ○自主学習ノートの作成・配付・活用 家庭での学習習慣の確立と親子のふれ合いの場の設定を目指して、自主学習ノートを作成し、全児童生徒に配付した。1月末日までのノート利用冊数は次のとおりであった。 小学生一人当たり平均3.9冊 中学生平均 3.8冊					
総合評価	B	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	・親を対象とした家庭教育に関する学習は、自由参加では人数の確保が難しい状況である。何かの機会を利用しながら、学習の機会が確保していくような方策が必要である。					
評価コメント	・家庭教育に関する学習の機会は、町教委が主催の自由参加の方式では、参加者に限りがある。内容を検討することは勿論であるが、じっしの方法として、各幼稚園や学校単位で、親が集まる機会を利用しながら、短時間でも中身のある学習の機会を設けていくことが必要である。 ・自主学習ノートは、各学校で内容紹介等活発な取組が行われていることもあり、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。親もコメントを記入するなど、我が子を励ます様子も見られ、親子のふれ合いの場となっている家庭も見受けられる。					

評価者評価	B	コメント	家庭教育支援に向けた様々な施策の更なる充実を図ることを期待したい。
-------	---	------	-----------------------------------

【重点施策5】「人権尊重の教育の推進」

施策名	人権と生命を尊重する教育の推進	点検評価 担当	学校教育担当 社会教育担当				
施策の方向性	○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。						
施策に関する 主な取組	○人権教育推進体制の充実						
	○人権感覚の啓発活動の充実						
	○人権教育の指導内容・指導方法の工夫改善						
	○児童虐待防止教育の推進						
指標名	人権問題啓発指導者養成講座等への参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	人権問題啓発指導者養成講座等への参加者数	362	391				
		現状値 (H27年度)	362	→	目標値 (H32年度)	420	

平成28年度 重点取組	人権教育推進体制の充実	
平成28年度実績	<p>○人権教育推進体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題啓発指導者養成講座の開催 324人 ・町人権教育推進協議会研修会 51人、啓発物資の作成・配付 <p>○教職員人権教育研修会 67人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市人権政策課人権教育専門員による講演会の実施 <p>○人権感覚の啓発活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権標語、人権作文の募集と、入選作品の選考、啓発物資の配付 <p>○人権教育の指導内容・指導方法の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚育成プログラムを活用した校内研修や授業の実施 	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	より一層の人権教育・啓発活動の推進。人権教育における適切な講師の確保。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・町の人権問題啓発指導者養成講座の参加者については、延べ324人と多くの方が受講され、着実に人権意識の高揚が図られてきている。様々な場面で周知を行い、参加者の増加や人権啓発の推進を図りたい。 ・したがって総合評価は「A」である。 	

評価者評価	A	コメント	人権教育が確実に進んでいる。
-------	---	------	----------------

【重点施策5】「人権尊重の教育の推進」

施策名	同和教育の推進・充実		点検評価 担当	学校教育担当 社会教育担当			
施策の方向性	○同和教育の推進と指導者を育成します。 ○同和教育研修会開催と啓発を行います。						
施策に関する 主な取組	○同和教育の推進						
	○人権問題啓発指導者の育成						
	○同和教育・啓発研修会の開催						
	○各種研修会等への参加						
指標名	人権問題啓発指導者養成講座等の同和教育・啓発研修会への参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	人権問題啓発指導者養成講座等の同 和教育・啓発研修会への参加者数	—	202				
	現状値 (H28年度)	202		→	目標値 (H32年度)	230	

平成28年度 重点取組	同和教育・啓発研修会の開催及び各種研修会への参加	
平成28年度実績	○同和教育研修会の開催 ・人権問題啓発指導者養成講座 DVD「同和問題 これからの課題」視聴 112人 ・人権問題啓発指導者養成講座 講演会「部落史に学ぶ人権教育-差別やいじめに 向かい合うには-」 70人 ○県・郡等各種研修会等への参加 20人	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	同和教育指導者の育成	
評価コメント	・同和教育研修会を開催。多くの方が受講され、人権意識の高さが伺える。 ・県・郡等、同和問題に関する研修会に、教職員が積極的に参加している。 ・同和教育を推進するうえでの指導者の育成が課題である。 ・「部落差別の解消の推進に関する法律」の基本理念にのっとり、同和教育を推進します。 ・したがって総合評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	各種研修会が明確であり、計画的に進んでいる。
-------	---	------	------------------------

【重点施策5】「人権尊重の教育の推進」

施策名	障がい者理解・差別解消を目指す教育の推進		点検評価 担当	学校教育担当 社会教育担当			
施策の方向性	○障がい者への理解・差別解消を目指す教育を推進します。						
施策に関する 主な取組	○障がい者への理解・差別解消を目指す教育の推進						
	○障がい者理解のための研修会・講演会開催						
成果指標	指標名	人権問題啓発指導者養成講座等の障がい者理解・差別解消のための研修会への参加者数					
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	人権問題啓発指導者養成講座等の障がい者理解・差別解消のための研修会への参加者数	—	74				
		現状値 (H28年度)	74	→	目標値 (H32年度)	85	

平成28年度 重点取組	障がい者理解・差別解消のための研修会等の開催	
平成28年度実績	<p>○障がい者理解・差別解消のための研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題啓発指導者養成講座 講演会「知的障がい者の人権と成年後見制度」 71人 <p>○障がい者理解・差別解消講演会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者差別解消法住民・事業者・行政合同講演会 3人 	
総合評価	A	<p>総合評価の目安</p> <p>S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B あまり進んでいない C 全く進んでいない</p>
課題	障がい者理解教育のための研修会・講演会のさらなる開催	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい者の人権についての講演会を開催、多くの方が受講した。 ・障がい者理解・差別解消に向けた指導者の育成、講師の確保が課題。 ・中学校では、授業や学校生活を通じて、障がい者への理解を実践的に学んでいる。 ・したがって総合評価は「A」である。 	

評価者評価	A	コメント	取り組みがほぼ計画通りに進んでいる。
-------	---	------	--------------------

【重点施策5】「人権尊重の教育の推進」

施策名	男女共同参画社会の実現を図る教育の推進		点検評価 担当	学校教育担当 社会教育担当			
施策の方向性	○男女共同参画社会の実現に向けた教育を推進します。						
施策に関する 主な取組	○男女共同参画の視点に立った教育の充実						
	○男女共同参画社会実現のための研修会・講演会の開催						
指標名	男女共同参画の視点に立った研修会・講演会の参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	男女共同参画の視点に立った研修会・講演会の参加者数	—	143				
		現状値 (H28年度)	143	→	目標値 (H32年度)	165	

平成28年度 重点取組	男女共同参画社会の実現を図る研修会・講演会の開催	
平成28年度実績	<p>○男女共同参画社会実現を図る研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区人権教育推進協議会理事会研修会 DVD「生まれ来る子へ」視聴 21人 ・町人権教育推進協議会研修会 DVD「あなたがあなたらしく生きるために」視聴 51人 ・人権問題啓発指導者養成講座 講演会「種をまこう」 71人 	
総合評価	B	<p>総合評価の目安</p> <p>S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B あまり進んでいない C 全く進んでいない</p>
課題	男女共同参画社会の実現を図る研修会・講演会の充実	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会の実現を図るための研修会を開催。 ・男、女の性差だけでなく、性的マイノリティの理解も含めた研修も開催。 ・研修内容等のさらなる充実が課題である。 ・したがって総合評価は「B」である。 	

評価者評価	B	コメント	男女共同参画社会の実現に向けた研修のより一層の充実を期待したい。
-------	---	------	----------------------------------

【重点施策6】「生涯学習・生涯スポーツの振興」

施策名	生涯を通じた多様な学習活動体制の整備充実		点検評価 担当	社会教育担当			
施策の方向性	○生涯を通じた多様な生涯学習を推進するための体制を充実します。 ○多様化する受講者のニーズに応じた講座・教室を充実します。						
施策に関する 主な取組	○生涯を通じた多様な生涯学習体制の充実						
	○受講者のニーズに応じた各種講座・教室の開催						
成果 指標	指標名	公民館主催講座への参加者数					
	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	公民館主催講座への参加者数	—	770				
		現状値 (H28年度)	770	→	目標値 (H32年度)	800	

平成28年度 重点取組	年齢層に応じた多様な講座の開催	
平成28年度実績	<p>○生涯を通じた多様な公民館講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者学級(全11回) 487人 ・夏休みかんたん工作教室 15人 ・ハロウィンお菓子づくり教室 20人 ・ふるさとの味講座(全7回) 123人 ・手作りの味講座(全4回) 55人 ・布ぞうり教室 13人 ・菊花教室(全7回) 17人 ・正月飾り講習会(全2回) 12人 ・笹かご作り教室 12人 ・男の料理教室 16人 <p>○公民館施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕を実施</p>	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	多種・多様で新たな講座の開拓、老朽化した公民館の維持管理	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢層に応じた公民館講座を開催している。 ・特に「ふるさとの味講座」「手作りの味講座」は、抽選になるほどの人気がある。 ・快適に施設を利用してもらうため、必要な修繕を行った。 ・公民館講座も同内容の講座が続いており、新たな講座を検討していく必要がある。 ・したがって総合評価は「A」である。 	

評価者評価	A	コメント	多様な講座が充実しており、町民のための生涯学習の基盤が多くなされている。
-------	---	------	--------------------------------------

【重点施策6】「生涯学習・生涯スポーツの振興」

施策名	まちづくり活動と連携した社会教育の充実		点検評価 担当	社会教育担当			
施策の方向性	○まちづくり活動と連携した社会教育を充実します。						
施策に関する 主な取組	○まちづくり活動と連携した社会教育の充実						
	○青少年健全育成の推進						
	○文化芸術体験事業の開催						
指標名	まちづくりと連携した社会教育事業への参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	まちづくりと連携した社会教育事業への参加者数	—	1,475				
	現状値 (H28年度)	1,475		→	目標値 (H32年度)	1,600	

平成28年度 重点取組	まちづくりと連携した社会教育事業への参加者数						
平成28年度実績	<p>○地域人材活用事業 562人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にあって豊かな経験・技術・知識をもった人材を学校教育に活用し、児童に郷土についての理解や関心を高めるとともに、地域に開かれた学校としての教育活動を展開。（皆野小349人、国神小158人、三沢小55人） <p>○みんなのみんなの土曜映画館の開催 313人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者に、青少年健全育成啓発物資を配付。 <p>○各地域で開催されるお祭りでの青少年育成推進員による啓発物資の配付。</p> <p>○第4回皆野町文化芸術体験事業「林家たい平落語公演会」の開催 600人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の方に一流の文化・芸術に触れる「聴く・観る・学ぶ」機会を提供し、子どもから大人まで「本物の感動」を体験できる事業を開催。 						
総合評価	A	<p>総合評価の目安</p> <p>S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B あまり進んでいない C 全く進んでいない</p>					
課題	まちづくりと連携した、地域での人材確保						
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における経験豊かな人材を学校教育に活用し、郷土愛を醸成。 ・各地域での祭りの際に、青少年健全育成啓発物資を配付。 ・文化芸術体験事業では、毎回一流の芸術に触れ、好評を得ている。 ・まちづくりと連携した、地域人材の確保が課題である。 ・したがって総合評価は「A」である。 						

評価者評価	A	コメント	充実した取り組みがされている。地域人材活用事業は、ふるさと の理解に特徴的である。
-------	---	------	--

【重点施策6】「生涯学習・生涯スポーツの振興」

施策名	健康増進と体位体力の向上を目指すワンワン運動	点検評価 担当	社会教育担当				
施策の方向性	○健康増進と体力の向上を目指すための、町民一人一運動を推奨します。 ○子どもから高齢者までが、それぞれの年代で楽しめるスポーツを提供します。 ○ふれあいプール・ホットを適正に維持管理します。						
施策に関する 主な取組	○児童・成人・高齢者のそれぞれにあったスポーツの企画						
	○健康増進と体力の向上を目指すため環境の整備						
	○ふれあいプール・ホット主催事業の充実						
指標名	それぞれの年代にあったスポーツ企画事業への参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	それぞれの年代にあったスポーツ企画事業への参加者数	—	978				
	現状値 (H28年度)	978		→	目標値 (H32年度)	1,000	

平成28年度 重点取組	子どもから高齢者までそれぞれの年代で楽しめるスポーツを企画					
平成28年度実績	○体力向上塾(子ども向け) 40人 ・ボール投げ・立ち幅跳びの実技指導を行い運動能力の向上を目指す。 ○タグラグビー教室(子ども向け) 4人 ・ラグビーワールドカップ開催にちなみ、小学生を対象にタグラグビーを実施。 ・新たなスポーツに対する興味・関心のきっかけをつくる。 ○ゼロからマラソンチャレンジ(成人向け) 7人 ・埼玉県庁職員も活躍しているマラソン教室を実施。マラソンを楽しむ人の増加につなげる。 ○町民バスハイキング(高齢者向け) 20人 ○町内ハイキング(一般向け) 7人 ○ふれあいプール・ホット主催事業 900人 ・幼児対象(3教室)、小学生対象(9教室)、フレッシュエクササイズ(一般)					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	一般(成人)向けの事業展開と参加者の増加、老朽化した施設の更新					
評価コメント	・それぞれの年代にあったスポーツを企画し、参加者も多かった。 ・ふれあいプール・ホットでの水泳教室は、大変人気となっている。 ・現状としては、児童・高齢者の参加が中心となっており、成人の参加者数を向上させていく必要がある。 ・老朽化が進んでいるふれあいプールの設備を計画的に更新する必要がある。 ・したがって総合評価は「A」である。					

評価者評価	A	コメント	取り組みが大変充実している。
-------	---	------	----------------

【重点施策6】「生涯学習・生涯スポーツの振興」

施策名	生涯スポーツ・地域スポーツの振興	点検評価担当	社会教育担当				
施策の方向性	○生涯スポーツ・地域スポーツ振興のため、町体育協会事業への協力を推進します。 ○町民へスポーツを広めるため、スポーツ推進委員事業を推進します。 ○スポーツを行うきっかけづくりのため、多くのスポーツを体験する企画を提供します。 ○町体育施設を適正に維持管理します。						
施策に関する主な取組	○生涯を通じたスポーツ活動体制の整備・充実						
	○生涯スポーツ・地域スポーツの振興						
	○スポーツ団体の活動支援						
	○スポーツ推進委員との連携						
指標名	生涯スポーツ・地域スポーツに関するイベントへの参加者数						
成果指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	生涯スポーツ・地域スポーツに関するイベントへの参加者数	497	542				
	現状値 (H27年度)	497	→	目標値 (H32年度)	600		

平成28年度重点取組	生涯を通じたスポーツ活動推進の充実	
平成28年度実績	○町体育協会への補助金交付 ・地域におけるスポーツの振興。 ・加盟団体におけるスポーツ教室の開催。 ○町スポーツ推進委員事業 ・町主催事業への協力。 ・みんなの皆野ふれあいまつりスポーツ啓発・体験事業 100人 ○スポーツ少年団活動の推進 ○体カテストの実施 14人 ○かけっこ教室の開催 ・短距離の部 77人 ・長距離の部 51人 ○みなみの美の山さくらマラソンの開催 300人 ○町体育施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕を実施	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	地域におけるスポーツの振興と定着、老朽化した施設の維持管理	
評価コメント	・町体育協会を中心に、加盟各団体による生涯スポーツ・地域スポーツを推進。 ・町スポーツ推進委員の町主催事業への協力とふれあいまつりにおける啓発活動を実施。 ・第3回みなみの美の山さくらマラソンの開催。 ・したがって総合評価は「A」である。	

評価者評価	A	コメント	イベント参加者数が着実に増加している。
-------	---	------	---------------------

【重点施策7】「伝統文化継承と文化財保護活用の推進」

施策名	郷土芸能等の保存・活用と後継者の育成	点検評価担当	社会教育担当			
施策の方向性	○郷土芸能等を周知します。 ○郷土芸能等の保存と後継者の育成を推進します。					
施策に関する主な取組	○郷土芸能等活用事業の実施 ○郷土芸能等後継者の育成推進					
指標名	郷土芸能等の上演回数(展示等含む)					
指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
郷土芸能等の上演回数(展示等含む)	—	55				
	現状値(H28年度)	55	→	目標値(H32年度)	60	

平成28年度重点取組	郷土芸能等活用事業の実施	
平成28年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土芸能等後継者の育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財後継者育成費交付金の交付 ○郷土芸能等の公開 <ul style="list-style-type: none"> ・英語歌詞による秩父音頭の上演 ・みんなの皆野ふれあい祭での獅子舞・神楽の上演、獅子頭の展示 ・華厳の滝ヒーリングナイトでの獅子舞・神楽の上演 ・皆野町内外の祭りでの獅子舞・神楽の上演・展示 ・金沢のつつじ祭りでの出牛人形浄瑠璃の上演 ・門平の虫送り、立沢の虫送りの公開 ・いってんべえウォーキング開会式での秩父音頭・獅子舞等の上演 ・幼稚園、各小中学校運動会での秩父音頭の実践 	
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない
課題	郷土芸能等後継者の減少と高齢化	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能は、地域の高齢者が主に担っているのが現状である。今後は、子供たちが地域の郷土芸能、郷土文化に触れ合う機会を設け、若い後継者を育成する必要がある。 ・したがって総合評価は「A」である。 	

評価者評価	A	コメント	多くの取り組みがなされている。若い後継者の育成を期待する。
-------	---	------	-------------------------------

【重点施策7】「伝統文化継承と文化財保護活用の推進」

施策名	文化財の保護・活用と文化活動の振興	点検評価 担当	社会教育担当				
施策の方向性	○文化財の保護・保存を推進します。 ○文化財活用事業を推進します。						
施策に関する 主な取組	○文化財の保護・保存の推進						
	○地域の人々への文化財周知活動						
	○地域の文化財を活用した体験事業等の実施						
指標名	文化財保護・活用に関する講演会等の参加者数						
成果 指標	指標の説明	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値
	教育委員会主催の文化財の保護や、 活用に関する講演会等への参加者数	115	172				
	現状値 (H27年度)	115		→	目標値 (H32年度)	150	

平成28年度 重点取組	地域の人々への文化財周知活動					
平成28年度実績	<p>○埋蔵文化財の保護・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種開発に伴い、埋蔵文化財試掘調査6件を実施 ・浦山城跡埋蔵文化財発掘調査報告書の作成 ・「ほるとま展2016」での皆野町出土埋蔵文化財展示ブースの設置 <p>○収蔵文化財、文化財収蔵施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵文化財の整理 ・皆野町有形民俗文化財収蔵庫改修工事(国庫補助) <p>○文化財の啓発普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会だよりでの「文化財コーナー」の連載 ・広報での「みな歴史散歩」の連載 ・町内各小学校における前原の不整合出前授業の実施 ・町文化財保護審議委員による文化財めぐりの実施 					
総合評価	A	総合評価の目安 S 計画以上に進んでいる A ほぼ計画通りに進んでいる B あまり進んでいない C 全く進んでいない				
課題	地域の文化財を活かした啓発普及事業の推進					
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙での文化財紹介コーナーの連載等、町民に向けての文化財周知活動を行った。今後は、町内所在の文化財や旧農山村具展示館収蔵資料を活用した体験事業や文化財めぐりを検討していきたい。 ・したがって総合評価は「A」である。 					

評価者評価	A	コメント	ほぼ計画通り進んでいる。
-------	---	------	--------------

